

長崎街道

江戸時代に整備された九州の玄関口・豊前国小倉（福岡県北九州市小倉北区）と、海外との窓口・肥前国長崎（長崎県長崎市）とを結ぶ、全長228キロメートル（57里）の街道で、途中に25の宿場が置かれました。長崎と江戸を結ぶ、九州で最も重要な街道で、出島のオランダ商館長、全国各地の商人や学者、文人、坂本龍馬や幕末の志士等、さまざまな人が行き来し、日本の政治・経済・文化の発展と交流に大きく貢献し、新しい日本を生み出す原動力となった街道でした。

江戸時代、鎖国化でただ一つの貿易窓口だった長崎・出島に荷揚げされた砂糖は、長崎、佐賀を経て小倉に通じる長崎街道から、さらに京・大阪、江戸などへ運ばれたことから、「シュガーロード」とも呼ばれていました。

長崎街道のうち、大村宿（現在の長崎市）から鈴田峠を越えたところが、現在の諫早市の玄関口で、永昌宿（現在の諫早市永昌町）を通り、井樋ノ尾峠を越え、常盤坂の途中（領境石）が現在の諫早市多良見町と長崎市の境で、矢上宿（現在の長崎市矢上町）へと続きます。

このウォーキングコースは、永昌宿付近の諫早駅から、郡境石を通り、喜々津駅までの、現存する長崎街道を最大限通り、開発などにより現存していない場所は、最寄りの道に沿ったコースとなっています。

シュガーロード連絡協議会

シュガーロードの歴史と文化を活かし、西九州一帯の地域活性化を目指して設立され、3県（長崎、佐賀、福岡）と8市（長崎市、諫早市、大村市、嬉野市、小城市、佐賀市、飯塚市、北九州市）で構成されています。それぞれのまちでは、シュガーロードならではの食文化等が発展しました。

NPO法人 ふれあいフレンド

長崎街道久山新茶屋地下道にある「長崎街道絵巻通」の壁画や自然道、一里塚などの維持管理や整備など、長崎街道を活かしたまちづくりに取り組む団体です。そのほか、諫早市内の歴史街道やその史跡をわかりやすく表示解説したガイドマップや案内板の製作、毎年11月には里山ウォーキング大会を開催するなど、活動は多岐に渡っています。



長崎街道歩こう会実行委員会

毎年5月に多良見地域でウォーキング大会を開催しています。ウォーキングしながら地域の歴史遺産である長崎街道を再確認するとともに、健康増進を図る取り組みです。長崎街道や歴史に詳しい「たらみ歴史愛好会」が歴史ガイドを担当し、ウォーキング大会の帯同を「諫早市運動普及推進員」が担当するなど、地域の様々な団体が連携協力し、新緑の長崎街道を満喫する人気のイベントとなっています。（諫早市地域づくり協働事業）



● コースに関する問い合わせ先

2018年3月

諫早市 商工観光課 Tel.0957-22-1500 Fax.0957-22-2462

● 新たな魅力を発見したら、こちらまで

(一社)諫早観光物産コンベンション協会
Tel.0957-22-8325 Fax.0957-22-8354
www.isahaya-kankou.com

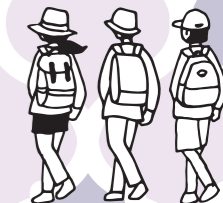
長崎街道の歴史は 学芸員の大島さんに!

諫早市美術・歴史館専門員。諫早史談会会員、専門は近世史。佐賀藩諫早領に関する古文書・史跡等を調査。著書『諫早史談』など。



大島大輔 学芸員

【お問合せ】 諫早市美術・歴史館
諫早市東小路町2番33号 Tel.0957-24-6611



永昌宿から坂本龍馬も歩いた
砂糖のみち
400年の歴史 文明開化の長崎街道諫早路を歩く

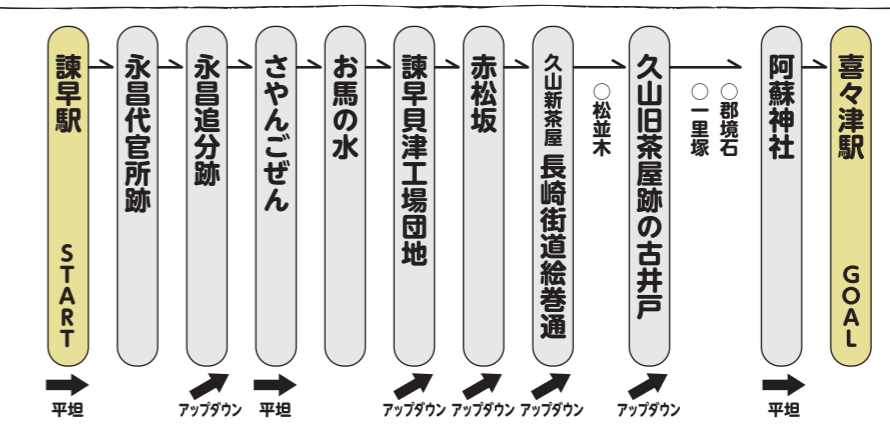


見どころ
お馬の水、久山茶屋跡の井戸 など

おすすめの季節
春・秋

新日本歩道紀行100選

テーマ: 食の道 スタイル: タウンウォーク・街歩き 所要時間: 約3時間 10.1km



江戸時代の長崎街道にまつわる史跡と現代の最先端技術が集積した工業団地「いにしえ」と「いま」が混在するコースでタイムスリップを楽しんでみませんか。



立ち寄りスポット

つかさ本舗
おこし
諫早市永昌東町5-5 0957-22-2380

ケーキ&ティールーム シェリール
洋菓子・カフェ
諫早市永昌町19-15 0957-25-2655

諫早パン工房 石窯人(かまんど)
パン
諫早市小船越町906-7 0957-26-4613

クッチーナ
パスタ&カフェ
諫早市貝津町3028-2 0957-25-8870

農事組合法人 ながさ南部生産組合 大地のめぐみ
農産物直売所
諫早市貝津町600-6 0957-25-2155

パン工房 KOGAKURA
パン
諫早市貝津町600-6 0957-25-4353

久山まんじゅう
まんじゅう
諫早市久山町2487-1 0957-26-7731

おむすびころりん
弁当店
諫早市多良見町化屋732-1 0957-43-8900

ル・ミエル 喜々津店
菓子店
諫早市多良見町化屋741-1 0957-43-0077

はんば食堂
食堂
諫早市多良見町化屋754 0957-43-2174

R and R coffee labo
コーヒー
諫早市多良見町化屋757-7 080-6433-3009

カジュアル中華ひまわり
中華
諫早市多良見町化屋762-8 0957-43-3911

普賢寿司
寿司・割烹
諫早市多良見町化屋480 0957-43-0062

大漁丼家多良見店
海鮮弁当
諫早市多良見町化屋643-1 0957-43-1011

吾妻鮨
すし
諫早市多良見町化屋880-1 0957-43-3063

お菓子のあづま屋支所通り店
菓子
諫早市多良見町化屋1885 0957-43-1262

夢工房レーヴ
菓子
諫早市多良見町465-7 0957-43-8080

永昌宿から坂本龍馬も歩いた 砂糖のみち 400年の歴史 文明開化の長崎街道諫早路を歩く



産業団地

長崎自動車道諫早ICの近くで長崎空港までも15キロと交通アクセスがよい場所に5か所(諫早貝津工場団地、山の手工業団地、諫早中核工業団地、諫早流通産業団地、西諫早産業団地)が集積しています。船舶、発電、半導体、食料品、航空宇宙関連などの製造業を中心に、約200社の企業で10,000人を超える就業者があり、全国でも有数の規模を誇ります。現在の諫早貝津工場団地にかつては長崎街道がありました。ウォーキングコースでは一部迂迴路を通ります。

貝津西公園

貝津西公園一帯は、発掘調査の結果、約2万年前の旧石器時代から縄文時代まで人が住んでいた痕跡が発見されました。長牟田遺跡と呼ばれ、現在は、盛土が行われ公園の下に遺跡は保存されています。

阿蘇神社

天文3(1534)年、当時伊佐早一円の領主であった西郷石見守が、現在の多良見町に社を建て、阿蘇大明神を祀ったのがはじまりといわれています。寛永元(1624)年に現在地に遷宮されました。

8 久山旧茶屋跡の古井戸

上の茶屋は純茶店、下の茶屋は旅館兼お茶屋で籠立場として殿様が休息をしたところと言われています。上の茶屋跡には、かの幕末の志士 坂本龍馬も飲んだといわれる井戸が今も残されています。

7 久山新茶屋 長崎街道絵巻通

久山茶屋付近にある全長38mの地下道の壁には、長崎街道沿いの名所とともに可愛いたぬき絵が描かれています。この絵は、たぬきを擬人化した風画で知られる堤けんじさんの下絵をもとに、地元の子も達と創成館高校の生徒が色付けした作品です。

6 赤松坂

坂を登りきった所に1本の赤松があったのが、名前の由来とされています。この松には「太閤手植え」の伝説がありますが、大戦中に枯れたといわれています。数少ない街道の面影を残すところです。

5 諫早貝津工場団地

昭和37年に国の工場等集団化事業の指定を受け、工業団地が創設されました。江戸時代、長崎街道が通っていたところに、現在では、船舶、発電、各種プラント関連機器等の製造工場が建ち並んでいます。

3 さやんごぜん

坂を登りきった所に1本の赤松があったのが、名前の由来とされています。この松には「太閤手植え」の伝説がありますが、大戦中に枯れたといわれています。数少ない街道の面影を残すところです。

2 永昌追分跡

島原街道や多良海道から長崎街道へ合流する分岐点。右折して鈴田峠を越えて大村方面へ。左折して井樋ノ尾峠を越えて長崎方面へ。出島のオランダ商館長やシーボルトも江戸参府の時はこの追分を通りました。

1 永昌代官所跡

石柱から道路向かいの石垣上の家屋までが代官所の跡です。現在は、道路や区画整理により様変わりしていますが、四面宮前(諫早神社前)から永昌追分まで登る間に永昌宿があり、宿継所、旅籠などが立ち並んでいました。

7 久山旧茶屋跡の古井戸

この付近を清水の谷といい、湧水が流れ、どんな干ばつにも枯れることがないと伝えられています。

幕末英国軍艦フェートン号事件以来、長崎港警固の必要性から、矢上(長崎市矢上)側と井樋ノ尾(諫早市多良見町喜々津)側の境が木杭であったのを役人立ち会いの上、石柱に立て直したものです。

6 赤松坂

坂を登りきった所に1本の赤松があったのが、名前の由来とされています。この松には「太閤手植え」の伝説がありますが、大戦中に枯れたといわれています。数少ない街道の面影を残すところです。

5 諫早貝津工場団地

昭和37年に国の工場等集団化事業の指定を受け、工業団地が創設されました。江戸時代、長崎街道が通っていたところに、現在では、船舶、発電、各種プラント関連機器等の製造工場が建ち並んでいます。

2 永昌追分跡

島原街道や多良海道から長崎街道へ合流する分岐点。右折して鈴田峠を越えて大村方面へ。左折して井樋ノ尾峠を越えて長崎方面へ。出島のオランダ商館長やシーボルトも江戸参府の時はこの追分を通りました。

1 永昌代官所跡

石柱から道路向かいの石垣上の家屋までが代官所の跡です。現在は、道路や区画整理により様変わりしていますが、四面宮前(諫早神社前)から永昌追分まで登る間に永昌宿があり、宿継所、旅籠などが立ち並んでいました。